

芝生・緑地管理の除草剤

石原ザイトロンアミン液剤



除草剤分類

4

農林水産省登録	第14676号
有効成分	トリクロピル・・・・・・・・・・ 44.0%
その他化管法該当成分	エチレンジアミン四酢酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩（1種）2.3%
性状	暗褐色水溶性液体
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
危険物	第4類第2石油類
有効年限	5年
包装	芝用：1L × 10本 林地・緑地管理用：500mL × 20本

特長

✓ イネ科と広葉雑草との間に選択性があり、広葉雑草に高い効果を示します。

✓ 雑草の茎葉から吸収され体内を移行し、その生理機能を阻害して枯死させます。

✓ ホルモン型、吸収移行型の除草剤で、難防除の多年生・宿根性の広葉雑草にも強い殺草効果があります。

✓ 除草効果は、散布翌日頃から茎葉に捻転現象がみられ、遅くとも10～15日後には殺草効果が現れます。

適用作物と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量又は希釈 倍数	使用液量	本剤の使用回 数	使用方法	トリクロピル を含む農薬の 総使用回数
日本芝	—	一年生広葉雑 草 クローバー、 チドメグサ等 の多年生広葉 雑草	雑草生育期	200~600 ml/10a	150~ 200ℓ/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等	一年生広葉雑 草 多年生広葉雑 草		500~1000 ml/10a	200~ 250ℓ/10a		植栽地を除く 樹木等の周辺 地に雑草茎葉 散布	
		ニセアカシア	3月~9月	20倍	10~20ml/株 径10cm	2回以内	切株処理	2回以内
すぎ (下刈り) ひのき (下刈り)	—	落葉雑かん木 一年生広葉雑 草 多年生広葉雑 草 クズ	雑草木の新葉 展開後~生育 期	350ml/10a	30ℓ/10a		雑草木茎葉散 布	
						雑かん木		4月~10月
林木	造林地	クズ	11月~5月	25倍	10~20ml/株 径3~5cm	切株処理		
				3倍	1ml/株		株頭処理	
		クズ・フジ等 のつる類	4月~10月	2~3倍	0.5~2ml/株径 2~5cm	つる切り処理		
		ニセアカシア	3月~9月	20倍	10~20ml/株 径10cm	切株処理		
3倍	3ml/樹径8~ 9cm			立木処理				

※本内容は2017年7月25日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

一般的注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきることを。
- 使用の際は展着剤を加用すること。
- イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の多い所では使用しないこと。
- 広葉雑草の中、オオバコ、スイバなどには効果が劣るので、それらの優占する所での使用はさけること。又、カタバミにも効果が不十分な場合があるので、カタバミの多い所では所定の範囲で多めの薬量で使用する。
- 草花、植木等周辺の植物には薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。
- 散布後の降雨は効果を減ずるので、天候を見定めてから散布すること。また、降雨後に散布する場合は雑草が乾いてから散布すること。
- 金属腐蝕性があるので、散布器具や薬液の調製に使用した容器等は、使用后直ちに水で十分洗うこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量・使用時期・使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

作物別注意事項

日本芝に使用する場合

- ターフを形成した日本芝に使用し、西洋芝には薬害を生じるので使用しないこと。
- 雑草発生前～発生前期の処理では効果が劣るので雑草が生え揃った後の雑草生育期に散布すること。
- 本剤の処理により、黄変等の薬害を生じることがあるが、やがて回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。但し、夏期高温時や芝の生育が劣っている場合には黄変の程度が大きくなるので十分注意すること。

公園、堤とう等で使用する場合

- 激しい降雨の予想される場合は、使用をさけること。
- 散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
- 水源池等に本剤が飛散・流入しないように十分注意すること。
- 散布薬液の飛散によって自動車やカートタンの塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域の諸物件に十分留意すること。

すぎ、ひのき（下刈り）に使用する場合

- 落葉雑かん木に使用する場合、1.5m以上のものに対しては効果が劣るので、1.5m以下の時期に使用すること。又、ムラサキシキブ、リョウブ、クロモジには効果が不十分であるので、それ等の優占するところでの使用をさけること。
- 造林木に直接かかると薬害を生じるおそれがあるので、かからないように散布すること。

造林地、樹木等に使用する場合

- 雑かん木及びニセアカシアの切株処理に使用する場合は、株の側面にナタ等で傷をつけてから、切口及び側面に薬液が十分付着するように散布すること。
- クズの株頭処理に使用する場合は、株際よりつるを切断した切り口に薬液が十分付着するように処理すること。
- クズ・フジ等つる類のつる切処理に使用する場合は、1～3カ所ナタ等でつるに傷をつけてから、切口に薬液が十分付着するように処理すること。
- ニセアカシアの立木処理に使用する場合には、幹の周囲に切れ目なく切傷をつけてから、その部分に薬液が十分付着するように処理すること。

安全使用上の注意事項



- 誤飲などのないよう注意すること。
- 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時及び立木、切り株等の処理の際には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- 公園、堤とう等で使用する際には、小児や散布に関係のないものが作業現場に近づかないよう配慮するとともに居住者、通行人、家畜などに被害を及ぼさないよう注意を払うこと。また散布後であっても、少なくともその当日は散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮すること。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。
- 危険物第4類第2石油類に属するので火気には十分注意すること。

魚毒性等

この登録に係る使用方法では該当がない。

保管

火気をさけ、直射日光の当たらない低温な場所に密栓して保管すること。